

令和5年度 嶺北特別支援学校 学校関係者評価書

(問) ・学校評価書の成果と課題は適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策は適切かどうか。

(評価者) ・特定非営利活動法人 ピアファーム 理事長 林 博文 氏
・福井県嶺北親の会 会長 北村 春樹 氏
・福井県立嶺北特別支援学校 PTA会長 平田 賢治 氏

(意見)

1・2・3・4 教育課程、学習支援

・(小学部低学年)

小学部低学年児童41名のうち小学1年生は18名。異動したばかりの教員が担当になることもあるので児童も教員も最初は慣れることに精一杯である。動画記録を授業の振り返りに使用し、授業で気付かなかった児童の反応や観察するポイントを教員で共有し授業改善を図ることは教員のスキルアップにつながる。具体的な目標については保護者の意見と合致していて良い。継続して児童が安心して学習に取り組める関係を構築して行って欲しい。

・(小学部高学年)

児童も保護者も学校に慣れ、安心して様子が見え始める。児童の能力を精一杯伸ばしてほしい。

・(中学部)

環境が変化する上に成長期で不安定な時期。教職員で個に応じた支援について協議し、適切な支援を継続して欲しい。

・(高等部)

農業体験では礼儀が守られており、感心している。日頃の学校における丁寧な指導の積み重ねを感じる。集団としての動きも指導されており、月1回の体験教育のたびに成長を感じている。体験しながら外部と接する中で学んでいくことは大変貴重なことである。学校、家庭以外の関わりを持って自己実現にどう近づけていくかが大切である。

5 健康・安全

200人以上児童生徒が在籍する特別支援学校で、児童生徒の健康について養護教諭二人で支えるのは大変なことである。教職員に怪我等の応急処置について研修をし、実践していくことは大変よいことである。また、養護教諭の業務軽減という視点だけでなく、児童生徒の将来を考えると自分で応急処置ができることは貴重なことである。安心安全な学校環境の整備や怪我予防について、教職員だけでなく児童生徒も一緒に心掛け、学校全体で取り組んでいくと良い。また、ヒヤリハットアクシデントについては全て教員に共有し、必要に応じて児童生徒に指導し事故防止に努めて欲しい。

6 生徒支援

・(生徒支援a)

体育大会を学部ごとの平日参加にしたり、文化祭の発表が安心して行える環境設定をしたりと児童生徒が実態に応じて意欲的に活動できるよう工夫がされている。全ての児童生徒が安心して力を発揮できる行事のあり方について創意工夫を続けて欲しい。

・(生徒支援b)

寄宿舎利用生徒について、自立に向けた目標を立て、保護者と共有し個に合わせて支援している。しかし週に数日の寄宿舎生活の中で成果を出すのは難しいと思われる。保護者と目標を共有した上で家庭でも協力していただき、子どもの自立のために支援して行ってほしい。

7 進路支援

・保護者が小学部から高等部卒業後を見据えるのは難しい。目標設定も高かったのかもしれない。しかし、小学部からの積み上げが将来の進路につながっているという認識は教員も保護者も必要。次年度も高等部では生徒増が見込まれ、進路支援は大変だと思う。新しい職域についても開拓すると良いのではないかと。卒業生で高齢者介護施設で働いている方は、高齢者に大切にされている。介護の方に力を入れてみてはどうか。

8 保護者・地域との連携

・PTAでオンライン会議のシステムについて予算を付けている。懇談等で十分活用していただき、保護者や地域と情報共有して欲しい。また、教職員も積極的に活用し、スキルアップを図って欲しい。

【学校関係者評価を踏まえた今後について】

学校関係者からは、特に「児童生徒一人一人の発達段階や特性、思いに応じた丁寧な支援」や「教職員と児童生徒で築く安全・安心な教育環境」「学校生活や寄宿舎生活で育む自立のための力」に対して、高い評価が得られた。いただいたご意見や課題については、管理職を中心に各学部学年や各校務部で検討し、「児童生徒や保護者、そして教職員も笑顔になる学校」「地域とのつながりの中で学ぶ学校」を目指し、次年度の教育目標の設定及び教育実践に生かしていく。